

# 印旛普及だより

〒285-0026 佐倉市鎗木仲田町8-1 TEL：043-483-1128 FAX：043-485-9502  
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/apcenter/inba/>  
発行：印旛農林振興センター地域振興部改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

## 梨農家の女性の勉強会を開催しました！

「梨の栽培技術や経営について学んだり、情報交換する機会があれば…」

印旛地域では、若手梨生産者のパートナーの要望を受けて、「梨農家の女性の勉強会」を開催しています。

梨農家では女性も多くの作業に携わり、その内容も受粉や摘果から直売における管理と多岐にわたります。しかし、梨栽培の知識や情報を得る機会はありません。

勉強会では、梨の専門用語から作業の仕方など、梨生産に関わる知識の勉強に加え、他のメンバーがどのようなように仕事と家事・育児を両立しているかなどの情報交換を通じたネットワーク作りを目的としています。

### ○第1回 交流会

平成22年4月27日、白井市の

梨園にて交流会を開催しました。白井市を中心に、印西市、八街市から合わせて11名の参加がありました。

梨栽培の中で自分が担っている仕事の内容や、今後勉強したいことについて、自己紹介や情報交換を行い、農林振興センターからは摘果の仕方や紫外線予防のポイントなどの情報提供を行いました。

### ○第2回 摘果講習&実習会

「摘果について詳しく勉強したい」との参加者からの要望を受



摘果実習の様子

け、5月7日に講習会を行いました。早期摘果の必要性やポイントを説明するとともに、実習では経験者を中心に「どの果実を残すか、また普段どのように摘果を行っているか」などを話し合いながら、全員で1本の樹を仕上げました。

今後は、直売方法の情報交換や栽培に関わる基礎知識を学ぶ予定です。

印旛農林振興センターでは、梨経営のパートナー女性の育成を今後も支援していきます



女性の会発足しました！

# 水稲の 今後の栽培管理

## 「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」の穂肥は、幼穂形成期（幼穂長1mm）から約1週間後、幼穂長が10mm（出穂18日前）になった頃が適期です。

5月1日植えの「コシヒカリ」は、例年6月下旬から7月上旬にかけて幼穂形成期をむかえますので、幼穂長を確認し、生育に合わせた適正な穂肥を施用しましょう。

## 病害虫防除

### ◎いもち病

いもち病の発生に好適な条件は、平均気温20～25℃で曇雨天が続く、湿潤時間が長い（しとしと雨で、葉の表面がうっすら濡れているような状態が続く）場合です。

温暖な千葉県では、収量にまで影響するような甚大な被害はほとんど見られませんが、本年は春先からの天候不順に加え、夏の予報も聞かれています。ほ場を良く観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

毎年発生する谷津田等の常発田では、特に発生に注意するとともに、発病前の予防散布（粒剤）も含めて検討しましょう。

### ◎カメムシ類

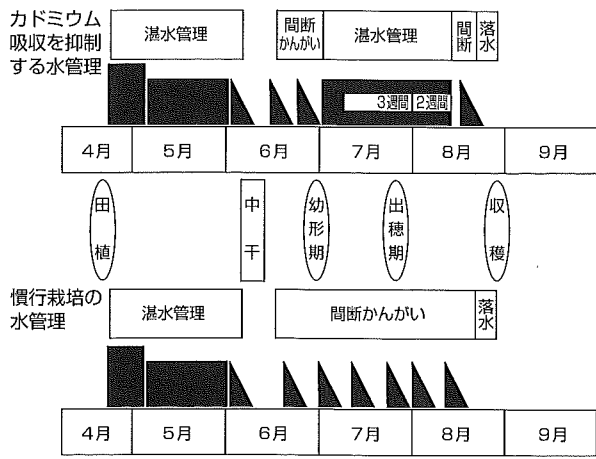
斑点米の被害は、乳熟期～糊熟期のカメムシ類による吸汁により発生します。穂揃期に成虫の飛来が多い場合は、乳熟期までに薬剤散布をおこない、斑点米の発生防止に努めましょう。

## 水管理

これまで、幼穂形成期以降は間断かんがいの管理に移行してきましたが、自然由来のカドミウム（※下段の枠内参照）の吸

収を抑えるために、「出穂前3週間、出穂後2週間は湛水管理」とすることが有効であることが分つてきています。その前後の期間は、従来通り間断かんがいをを行います。

出穂後25日までは、米粒の充実のために水が必要です。収穫前の早期落水は、千粒重の低下、胴割粒の発生等、品質低下に結びつく場合がありますので、適正な水管理により、収量品質の高い米づくりに努めましょう。



## 安全・安心、

### 良質米生産に向けて

米のカドミウム含量の

規格基準が変わります

「食品衛生法」に基づく規格基準の一部が改正されました。米のカドミウム含量の基準値が厳しくなり、基準値（精米・玄米）は、現行の1ppmから「0.4ppm以下」に引き下げられます（法律の施行は、平成23年2月28日）。

カドミウムは、土壌中の酸素が少ない状態になると水に溶けにくくなるため、水田に水を張った（湛水）状態を保つことにより、吸収を抑えることができます。自然由来のカドミウムは、出穂3週間前から出穂2週間後にかけて稲体に盛んに吸収されますので、この時期に湛水管理とすることが有効です。

ご不明な点は、改良普及課までお問い合わせください。

# 直売向きの

## 野菜を作ろう！

今回は直売に向く野菜として、ニンニクとソラマメの栽培について紹介します。

### ◆◆◆ ニンニク ◆◆◆

**品種** 品種はホワイト・在来大球・などを用います。

**施肥・植え付け** 施肥は別表の

### 栽培暦

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
作付期間	○—————									
主な作業	施肥 植え付け	芽かき			追肥	追肥	除合			収穫

### 施肥基準 kg/10a

施用時期	窒素	りん酸	加里	
基肥	9月中旬	10	25	10
追肥	2月下旬	5	5	5
	3月下旬	5	5	5
計		20	35	20

### にんにく栽培のポイント

- ・栽培には無病のりん片を用いる。
- ・酸性土壌は嫌う。土壌pHは6.0～6.5に。
- ・収穫が遅れると球の割れの原因となるので注意。
- ・過剰施肥は春腐病等の病害や割れの原因となる。

**収穫** 収穫は5月中旬頃から肥大を確認して、茎盤部とりん茎の底部が平らになった頃が適期です。

### 摘蕾

4月下旬頃から抽台した株の「とう」をつみ取ります。これは「ニンニクの芽」として食用にできます。

施肥基準を参考に施します。9月下旬に、畝間30cm、株間12cm、深さ3～4cmにりん片を立てて植え付けます。芽が複数でた場合は11月頃に1芽に整理します。

# ◆◆◆ ソラマメ ◆◆◆

**品種** 品種は陵西一寸・打越一寸などを用います。

**播種** へそ（おはぐろ）を下側にして種子の先端が見える程度に深さに播種します。

**施肥** 基肥は緩効性肥料を主体にします。施肥基準を参考にしています。

### 栽培暦

月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
作付期間	○●—————									
主な作業	播種	施肥 定植			追肥	整枝 追肥	追肥			収穫

### 施肥基準 kg/10a

施用時期	窒素	りん酸	加里	
基肥	9月中旬	8	16	8
追肥	2月下旬	2	1	1
	3月下旬	2	1	1
計		12	18	10

### そらまめ栽培のポイント

- ・連作ほ場は避ける
- ・アブラムシはウイルス病を伝播するので防除を徹底する。
- ・ウイルス病に感染した株はすみやかに抜き取る。



**収穫** 莢がやや下に垂れて光沢が見られ、豆のへそがやや黄色になった頃が収穫適期です。

**追肥** 施肥基準を参考に、通路部分に施肥します。

**定植** 床幅70cm通路80cmのベツトを作り、本葉2～3枚のときに、株間45～60cmの1条植えて定植します。

**整枝** 3月中旬頃に生育の良い枝を8本くらい残して、株元から切り取り、株の中心に5cmほど土を入れます。

# 家族との時間を大切に、安定した経営を

富里市七栄 津田 壮一郎さん  
乃梨子さん

今回は、富里市で意欲的に農業に取り組んでいる若手農業者、津田壮一郎さん・乃梨子さんご夫妻を紹介します。

## ◎脱サラから就農へ

お二人がご結婚を機に就農されたのは、4年前のこと。就農前はお二人それぞれ農業とは全く無縁の会社に勤務していました。忙しく働く日々の中で、将来の自分を考えた時、「会社の中で働くより、独立して能力と時間を自由に使える仕事」を探しつつ、また、「時間と心の余裕を手に入れて、人間らしい生活をする」ために、農業という職業を意識するようになりました。妻・乃梨子さんの実家が農家だったこともあり、脱サラして農業の道へと進む決意を固めたそうです。

## ◎津田農園の概要

津田さんは、約2ヘクタールの農地で、スイカ、トウモロコシ、ニンジン、ダイコン、中玉トマトなどを栽培しています。



平成20年度に、ご両親らがセブンファーム富里を立ち上げ、その後、平成22年3月に個人経営部門である津田農園の経営移譲を受けました。現在、ご両親

の法人経営と、ご自身の個人経営とを平行して、農産物の作付け及び販売をおこなっています。経営委譲を機に、夫婦間で家族経営協定を締結、また、連名で農業改善計画を富里市に申請して認定農業者になりました。

## ◎経営の発展に向けて

J A富里市青年部の副部長としても活躍している壮一郎さん。スイカの産地として有名な富里市ですが、今後も富里の農業が発展し続けていくために、スイカに続く新たな特産品作りに向けて青年部の仲間と知恵を出し合い、検討を続けています。

個人の経営にとどまらず地域農業の発展も視野に入れ、積極的に活動する姿が印象的でした。最後に、「目指す農業は？」との問いに、「ラクして稼いだい！」と答える笑顔の裏には、経営者としての責任感がひしひしと伝わってきました。さらなる活躍に期待しています。

## 女性のための経営研修会

改正農地法の変更ポイントや認定農業者の共同申請について、研修会を開催します。

日時 7月15日(木)

13時30分～16時

会場 印旛合同庁舎

講師 女性農業委員の会

斉藤 教子氏(船橋市)

## 帰農者支援セミナーの開催

定年帰農者やUターン、新規参入で既就農者、就農希望者を対象にセミナーを開催します。

7月21日に開講式を行い、各月1回で5回の研修会を行います。

秋野菜、豆類、花き等の、播種から収穫までの実習、視察研修会などを行う予定です。

★詳しい内容は、農林振興センター改良普及課までお問い合わせください。